

資 料 編

1 収支状況

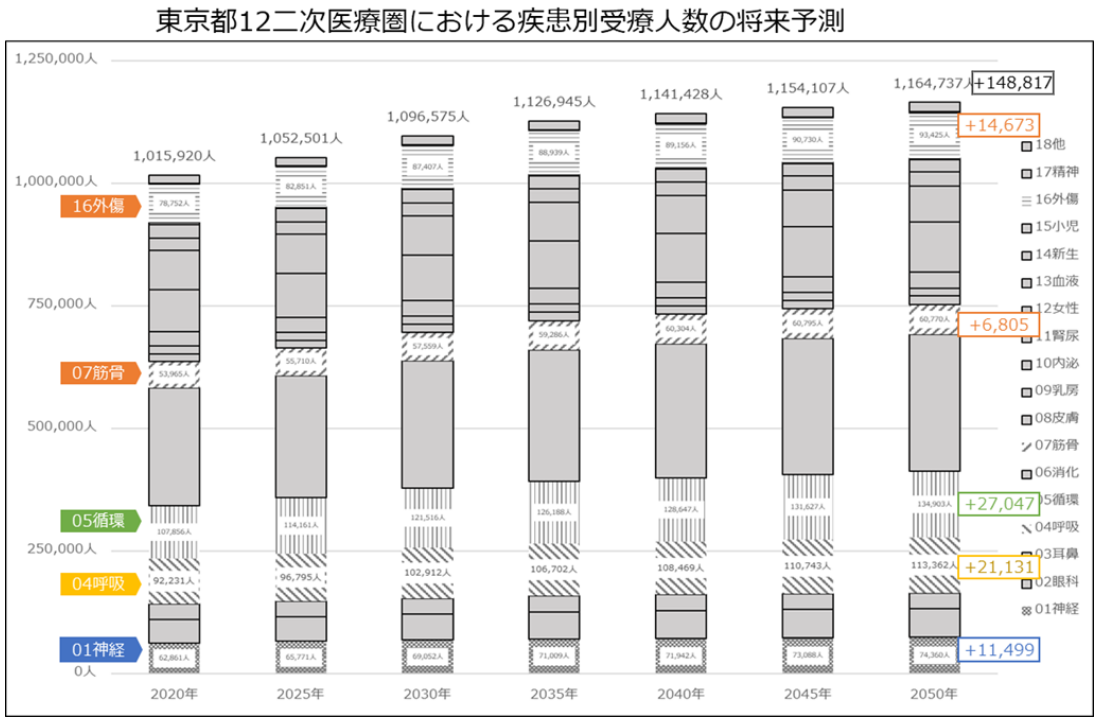
- 医業収支は、令和2年度に新型コロナの影響を受けて医業収益が減少するに伴い悪化した。
- 令和5年度に医業収支及び総収支は改善したものの、収支赤字が継続している。

(千円)

区 分	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総 収 益 (A)	2,297,707	2,372,663	2,196,589	2,135,780	2,142,167	2,264,217
医 業 収 益 (B)	2,281,119	2,356,927	2,183,237	2,107,072	2,123,980	2,247,353
入 院 収 益	2,082,016	2,145,966	2,033,911	1,969,475	1,993,561	2,104,072
外 来 収 益	159,690	173,617	110,831	99,837	95,664	104,468
そ の 他 の 収 益	39,413	37,344	38,495	37,760	34,755	38,813
医 業 外 収 益	16,588	15,736	13,352	28,708	18,187	16,864
総 費 用 (C)	3,146,082	3,253,222	3,238,769	3,291,997	3,200,141	3,307,805
医 業 費 用 (D)	2,879,217	2,937,629	2,916,755	2,962,620	2,878,513	2,999,516
職 員 費	1,760,600	1,772,482	1,745,516	1,731,291	1,706,456	1,738,260
材 料 費	177,037	195,756	185,356	157,754	166,431	173,310
管理及び事業費	913,731	946,134	969,254	1,048,699	971,385	1,065,666
研 修 研 究 費	19,783	19,582	13,061	14,337	13,885	14,850
備 品 費	8,066	3,675	3,568	10,539	20,356	7,430
災 害 対 策 費	2,422	733	1,058	961	666	10,496
消 費 税	264,443	314,860	320,956	328,416	320,962	297,793
総 収 支 (A-C)	△848,375	△880,559	△1,042,180	△1,156,217	△1,057,974	△1,043,588
医 業 収 支 (B-D)	△598,098	△580,702	△733,518	△855,548	△754,533	△752,163

2-1 今後の患者数予測

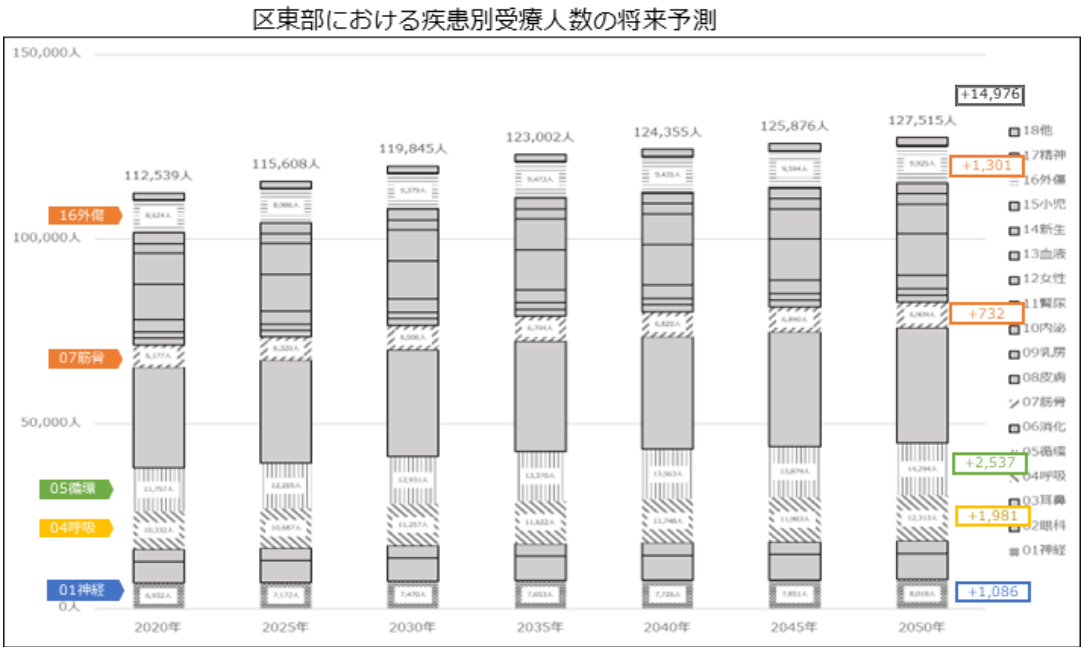
- DPCデータのMDC(18の主要診断群)分類における「01神経」「04呼吸」「05循環」「07筋骨」「16外傷」がリハビリテーションが必要な患者の疾患であり、2020年から2050年にかけて受療人数は増加



出典：東京都委託調査調べ（株式会社川原経営総合センター）：MDC分類別の受療率の推移
※ 増減は2020年比

2－2 疾患別受療人数/受療割合の将来予測（区東部）

➤東京都リハビリテーション病院が所在する区東部圏域（墨田区、江戸川区、江東区）について、DPCデータのMDC(18の主要診断群)分類における2020年から2050年にかけて「01神経」「04呼吸」「05循環」「07筋骨」「16外傷」の受療人数は増加



出典：東京都委託調査調べ（株式会社川原経営総合センター）：MDC分類別の受療率の推移
※ 増減は2020年比

2－3 リハビリテーション病床の必要数

➤2020年から2040年にかけて都全域の人口は微減（▲0.5%）、区東部は微増（+0.3%）する。

人口	都全域	（参考）区東部
2020年人口	14,047,594人	1,494,327人
2040年人口推計	13,982,728人	1,499,562人

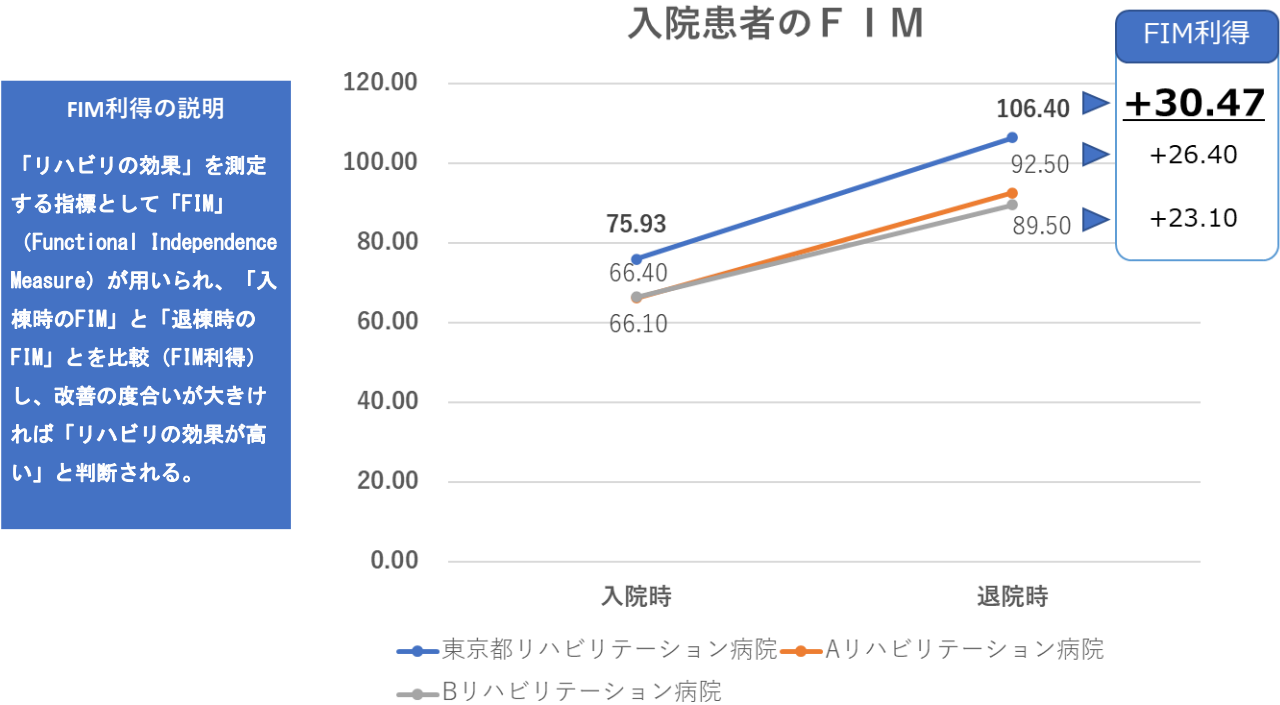
- 回復期リハビリテーション医療に該当すると考えられるMDC分類5つの受療人数の増加率は、都全域+15.9%、区東部+12.1%と人口増加率より高い。
- 受療人数の増加率から必要病床数は、都全域では1,315床、区東部では6床と推計された。

回復期リハビリテーション病床		都全域	（参考）区東部
「01神経」「04呼吸」「05循環」「07筋骨」「16外傷」の平均増加率	A	15.9%	12.1%
2023年度病床数	B	8,271床	961床
2023年度稼働率	C	82.2%	72.0%
2040年度必要病床数（2023年度稼働率の場合）	$D = B \times (1 + A)$	9,586床	1,077床
稼働率を都全域82.2%と設定した場合の差	$E = 0.822 - C$	0.0%	10.2%
2040年度必要病床数（都全域と同率の場合）	$F = D \times (1 - E)$	9,586床	967床
2040年人口推計	G	13,982,728人	1,499,562人
<参考>人口10万人対病床数	$H = F / G \times 100,000$	69床	65床

東京都委託調査調べ（株式会社川原経営総合センター）：MDC分類別の受療率の推移から作成

3 入院患者のFIM利得の比較

➤ リハビリテーションを受けた後の機能の回復を図る指標であるFIM利得について、都リハビリテーション病院は、他の民間のリハビリテーション病院と比較して、FIMの利得が大きい。



4 自動車運転再開支援の概要と実績

当院の運転再開支援とドライビングシミュレーター

当院の脳損傷者に対する運転再開支援は、2007年より開始しています。その当時は、脳卒中や脳外傷者が自動車運転を再開するという点に対して、否定的な雰囲気強く、またどのような手順で運転再開を進めればよいのか、どの程度の障害ならば安全に運転再開可能かなどが全く分かりませんでした。そこで、当院のリハビリテーションスタッフ達と2008年に障害者自動車運転研究会を立ち上げ、臨床・研究・啓発活動を進めてきました。この研究会はその後全国的な発展を遂げ、2022年に日本安全運転医療学会に発展しました。

この活動の中で、実際の運転能力の評価および運転能力向上のために、ドライビングシミュレーターが必要と考え、本田技研工業に協力をお願い

をし、ドライビングシミュレーターをお借りすることが出来ました。その後も本田技研工業と協力し、小型のドライビングシミュレーターであるセーフティナビ (図1) を導入し、ソフトウェア開発も進めてきました。他にも現在当院で使用している大型のドライビングシミュレーターの三菱プレジジョン (図2) を用いて昨年度までマツダ株式会社と共同研究として、運転中の視線計測を行って来ました。現在、脳損傷者の運転再開支援は、リハビリテーション医療の一分野として確立し、全国的な広がりを見せております。当院でも年間約80人の脳損傷者の方々の運転再開支援を行っております。今後も脳損傷者の方々が安全に交通社会へ復帰するための支援を継続してまいります。



図2 三菱プレジジョン

研究支援室長 武原 格

自動車運転再開支援 (医師による評価件数)

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
53	84	94	96	113

※医師評価以外のドライビングは150件／月

6 小児患者の受け入れについて

➤ 都リハビリテーション病院は他の病院と比較すると、20歳未満の患者を多く受け入れている。

患者の年齢別内訳（令和4年度）

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代以上	合計
都リハビリテーション病院	人数	12	11	26	77	140	124	154	171	30	745
	割合	1.6%	1.5%	3.5%	10.3%	18.8%	16.6%	20.7%	23.0%	4.0%	100%
		1.6%	34.1%					64.3%			100%
Aリハビリテーション病院	人数	3	4	16	58	120	104	185	200	63	753
	割合	0.4%	0.5%	2.1%	7.7%	15.9%	13.8%	24.6%	26.6%	8.4%	100%
		0.4%	26.3%					73.3%			100%
Bリハビリテーション病院	人数	2	8	10	37	81	90	216	317	74	835
	割合	0.2%	1.0%	1.2%	4.4%	9.7%	10.8%	25.9%	38.0%	8.9%	100%
		0.2%	16.3%					83.5%			100%

7 研究について

➤ ハビリテーション医療における診断方法、治療方法の改善、疾病原因及び病態の理解並びに患者の生活の質の向上等を目的として、院内臨床研究を実施している。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
臨床研究	28	21	28	25	22
論文・原著・総説等	44	37	32	25	8
学会発表	27	38	26	19	20
講演活動	65	36	75	70	48
受託研究	1	2	1	1	0

- ドライビングシミュレーターについて、企業との共同研究等を行っている。
- 令和5年度に日本リハビリテーション医学会国内誌論文賞の最優秀賞を受賞している。
（「高次脳機能障害者におけるドライビングシミュレーターを用いた運転評価の有効性の検討」）
- その他、大学等をはじめとした外部からの打診に都度対応している。